

医療と介護の連携拠点『尼崎市医療・介護連携支援センター“あまつなぎ”』が開設 在宅医療を担おうとされるかかりつけ医を、“あまつなぎ”は、しっかりとサポートします！

増加する高齢者への在宅医療を支えるために、尼崎市医療・介護連携支援センター“あまつなぎ”が、尼崎市医師会（尼崎市南塚口町4丁目 市民健康開発センター「ハーティ21」）内に開設されました。“あまつなぎ”は、国が進める医療介護連携推進事業の一環として、尼崎市が尼崎市医師会に事業を委託し設立された医療と介護の連携拠点で、2025年問題や2040年問題を抱えるこれからの超高齢社会において、円滑で安心・安全な医療連携および医療介護連携をサポートします。

その“あまつなぎ”の開設式が、関係者によってこの1月11日の1時半から尼崎市医師会（ハーティ21）にて行われました。

尼崎市内の在宅医療・介護連携推進の中核



◇ 1月11日に“あまつなぎ”の開設式が開催されました！

受託者である尼崎市医師会からは、黒田佳治 会長、橋本創副 会長、地域包括ケア・勤務医委員会担当理事が、委託者の尼崎市行政からは、稲村和美 市長、森山敏夫 副市長、郷司純子 医務監、吹野順次 健康福祉局長が、また、尼崎市社会保障審議会 在宅医療・介護連携部会 藤原久義 部会長（県立尼崎総合医療センター 院長）、および尼崎市医療介護連携協議会などの多職種の方々に列席を賜りました（総勢約30名）。



(式典の様子)

当日は、芝林 昇 事務局長の進行のもと、黒田医師会長の開設者挨拶、委託者 稲村市長からの挨拶で式が始まりました。黒田会長は「超高齢社会を迎えた今、医師会は、市行政との協働で“あまつなぎ”を運営することで、尼崎市のお年寄りが安心して暮らせるまちづくりを支援したい。」と医師会としてのこれからの決意を述べられました。また、稲村市長は「医療・介護連携の構築が進

む中、多職種間の連携には多くの課題をまだ抱えていることから、「あまつなぎ」の開設が、医療と介護をさらに固く結びつけ円滑な連携を促進する役割をなすことへの期待」を挨拶されました。



(挨拶をする稲村市長と、黒田医師会長（あまつなぎセンター長）)

引き続き、齋田 宏 理事（地域包括ケア勤務医委員会担当）からは、「あまつなぎ」の設立背景や業務概要の説明と3名のあまつなぎコーディネーターの紹介がなされ、その後に、尼崎市社保審 在宅医療・介護連携部会 藤原部会長、訪問看護ステーションハートケア 石上妃呂未 看護師、尼崎市ケアマネジャー協会 北村浩子 ケアマネジャーの3名から、医師会の日々の活動に対する感謝と「あまつなぎ」への激励の言葉をいただきました。

そして、最後には、「あまつなぎ」事務局の前で黒田会長・稲村市長・藤原院長によるテープカットが和やかにおこなわれ、式典を閉じました。



(テープカット、左より；稲村 市長、黒田 医師会長（あまつなぎセンター長）、藤原 社保審部会長（AGMC 院長）)